

大阪府

大阪市

2020年5月19日

大阪アーツカウンシル

新型コロナウイルス感染症拡大に対する大阪の芸術文化への支援に関する提言

新型コロナウイルス感染症拡大にあたり、前例のない文化行政を手探りですすめようと日々努力されていることと思います。大阪府文化振興条例に明記されているとおり、文化は人々の生きがいであり創造力の源泉です。そしてその文化を創造し享受することは人々の生まれながらの権利です。現況の中、大阪府と大阪市の文化を担当するセクションは何をすべきか。大阪の芸術家や人々の文化への権利が守られるように、すでに講じられている支援策に加えて以下の文化芸術支援策を提言します。

1. 公立文化施設及びそこに関係する事業者、芸術家、文化団体に対する支援

公立文化施設は、地域に根差した芸術文化活動の中間支援組織であるとともに災害時等には防災拠点になる府民・市民にとって重要な施設です。現況において各施設が運営等に困窮していないか確認し必要があれば支援してください。またワンストップ窓口を大阪府立江之子島文化芸術創造センター、大阪市立芸術創造館等に設置し、現況において困っている事業者や芸術家、文化団体を適切な支援につなげるとともに、大阪の芸術文化の全体像を把握させ、緊急時の公的な芸術文化支援へのニーズに備えてください。

2. 民間の芸術文化活動に関する事業者、芸術家、文化団体に対する支援

大阪の多様で多彩な民間の芸術活動の特性に合わせた支援を行ってください。特にオーケストラや伝統芸能など継続的に行うことで質の高い技能を有している実演家や団体を守ってください。上演芸術をはじめ、あらゆる芸術文化活動継続に必要な支援(安全な活動へのガイドライン、大阪市内に活動拠点が集積していることへの戦略的支援等)をしてください。これは府民・市民の質の高い芸術鑑賞機会を守ることにもなります。また現況において、さらなる表現開拓に挑戦する芸術家や文化団体の活動を表彰し、未来の大阪の文化芸術を代表する人材となるように奨励金を与えてください。表彰や奨励金はその芸術家のみならずジャンル全体の励みになるばかりか、その活躍は新型コロナウイルス感染症拡大の時代を生き延びようとする大阪の人々の心に力を与えることとなります。

3. 子どもの芸術文化活動(鑑賞、体験、学び)に対する支援

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い各学校が休校し、今後再開された際には登校日数が限られてしまうため学校教育において芸術に関わる時間が圧迫されるのではないかと危惧しています。芸術を学ぶことは、言葉にできない感情に向き合う術を学ぶことであり、現況において不安を抱え、ため込みかねない子ども達には大変重要です。まず学校教育で活用できる芸術系の教材を大阪の芸術家や文化団体とともにつくってください。その際に、芸術の質の高さを担保するとともに、子どもの専門家を作成チームに入れ子どもの目線をしっかりと反映させ、かつ本物の芸術鑑賞や体験へつなげるように制度づくりをしてください。

以上は、できることから早急に行うとともに、必要に応じて中長期的に実施してください。また教育や観光、福祉、産業分野等と連携する際には役割分担をして縦割りでは対応するのではなく、相乗効果となるよう相互協力してすすめてください。必要であればそれらを統括する機構を設置するのもよいでしょう。

以上

追記:「大阪における文化芸術関係者への新型コロナウイルスの影響に関する実態調査 報告書:速報版 2020年6月16日」(調査主体:一般社団法人おおさか創造千島財団、協力:大阪アーツカウンシル)を参照ください。